

【用語】 関東御取締出役―幕府の勘定奉行配下の役人で、関東の治安維持の強化を目的として幕領・藩領・旗本領の区別なく警察権を行使した。多胡郡吉井町―多野郡吉井町。水戸那珂湊―茨城県ひたちなか市。得物―武器。二念―他の考え、余念。閑道―間道。組合村々―御改革組合に組織された村々。大小惣代―改革組合村の役人。寄場―改革組合村のなかの中心となる村。差配―手分けして事務を執り行うこと。請印―廻状の村名の下へ承認の印をおすこと。順達―廻状を順々にまわすこと。留り―留り村、廻状が最後に廻ってくる村。

【解説】 幕末期の水戸藩は、藩主徳川斉昭の藩政改革に結集した改革派（天狗党）とそれに反対する諸生党が激しく争った。元治元年（一八六四）三月、天狗党の藤田小四郎らは攘夷を唱えて筑波山に挙兵したが、諸生党との戦いに敗れたため、武田耕雲斎を総大将として京都をめざした。そして十一月十日太田宿（太田市）に姿をあらわし、平塚河岸（境町）から武蔵国本庄宿（埼玉県本庄市）に入り、神流川をわたって藤岡・吉井・七日市などをへて、十六日下仁田村（下仁田町）に宿陣した。

この文書は、天狗党を追跡していた関東取締出役が、下仁田村に立てこもった浪士の警戒と討ち取り、あるいは抜け道に見張りの者を差し出し、浪士と思われる者は「無二念」すべて打ち殺せ、と指示した急ぎ廻状である。この時、板鼻宿・安中宿・松井田宿の寄場役人にも厳重警戒の指示が出されたのである。十七日、天狗党は下仁田で高崎藩と戦って勝利し、下仁田戦争、追跡する関東取締出役の農兵に対しても大砲で追い払い、内山峠から信濃国に入った。その後、一行は中山道へて越前国に向かったが、金沢藩に降伏して敦賀（福井県敦賀市）に監禁され、慶応元年（一八六五）幕命により三五二人が斬首された。